

『MISRA C 2012—組み込みソフトウェアの高信頼化ガイド』

正誤票

この正誤票は第1版第1刷に対するものです。お詫びして訂正いたします。

位置	誤	正																								
p.30	上から12行目 ・ヘッダファイルとインタフェースの適合検証を行う	ヘッダファイルとインタフェースの適合検証を行う (*冒頭の・を削除)																								
p.31	4.6. 表 <table border="1"> <thead> <tr> <th>参考文献</th> <th>詳細 [参考文献番号(10.3 参照)]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MISRA ガイドライン</td> <td>MISRA ガイドライン[15]</td> </tr> <tr> <td>ISC 61508</td> <td>IEC 61508:2010[32]</td> </tr> <tr> <td>DO-178C</td> <td>DO-178C[24]</td> </tr> <tr> <td>「Cプログラミングの落とし穴」, コーニグ</td> <td>コーニグ[31]</td> </tr> <tr> <td>ISO 26262:2011</td> <td>ISO 26262 : 2011[23]</td> </tr> </tbody> </table>	参考文献	詳細 [参考文献番号(10.3 参照)]	MISRA ガイドライン	MISRA ガイドライン[15]	ISC 61508	IEC 61508:2010[32]	DO-178C	DO-178C[24]	「Cプログラミングの落とし穴」, コーニグ	コーニグ[31]	ISO 26262:2011	ISO 26262 : 2011[23]	4.6. 表 <table border="1"> <thead> <tr> <th>参考文献</th> <th>詳細 [参考文献番号(10.3 参照)]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MISRA ガイドライン</td> <td>MISRA ガイドライン[15]</td> </tr> <tr> <td>コーニグ</td> <td>「Cプログラミングの落とし穴」, コーニグ[31]</td> </tr> <tr> <td>IEC 61508</td> <td>IEC 61508:2010[32]</td> </tr> <tr> <td>ISO 26262</td> <td>ISO 26262 : 2011[23]</td> </tr> <tr> <td>DO-178C</td> <td>DO-178C[24]</td> </tr> </tbody> </table>	参考文献	詳細 [参考文献番号(10.3 参照)]	MISRA ガイドライン	MISRA ガイドライン[15]	コーニグ	「Cプログラミングの落とし穴」, コーニグ[31]	IEC 61508	IEC 61508:2010[32]	ISO 26262	ISO 26262 : 2011[23]	DO-178C	DO-178C[24]
参考文献	詳細 [参考文献番号(10.3 参照)]																									
MISRA ガイドライン	MISRA ガイドライン[15]																									
ISC 61508	IEC 61508:2010[32]																									
DO-178C	DO-178C[24]																									
「Cプログラミングの落とし穴」, コーニグ	コーニグ[31]																									
ISO 26262:2011	ISO 26262 : 2011[23]																									
参考文献	詳細 [参考文献番号(10.3 参照)]																									
MISRA ガイドライン	MISRA ガイドライン[15]																									
コーニグ	「Cプログラミングの落とし穴」, コーニグ[31]																									
IEC 61508	IEC 61508:2010[32]																									
ISO 26262	ISO 26262 : 2011[23]																									
DO-178C	DO-178C[24]																									
p.47	図 <p>①構造体を パックした場合</p> <p>②構造体を パックしない場合</p>	図 <p>①構造体を パックした場合</p> <p>②構造体を パックしない場合</p>																								
p.56	Dir3.1	[Do-178C Section 6.4.4.3d]																								
p.65	Dir4.7 【例外】の位置	<p>Dir4.7 (必要)</p> <p>関数がエラー情報を戻す場合、エラー情報をテストしなければならない。 [適用対象]C90/C99</p> <p>[補足] エラー情報を戻すと見られる関数のリストは、プロジェクトによって決めなければならない。関数によって戻されたエラー情報は、意味のある方法でテスト(チェック)しなければならない。</p> <p>【例外】 実引数をチェックするなどして、関数がエラー表示を戻さないことを示す・チェックを行う必要はない。</p>																								
p.407 ~415	表の項目 (網掛け部)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">Id</th> <th rowspan="2">決定可能</th> <th rowspan="2">ガイドライン</th> <th rowspan="2">注</th> </tr> <tr> <th>C90</th> <th>C90</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Id		決定可能	ガイドライン	注	C90	C90																	
Id		決定可能	ガイドライン	注																						
C90	C90																									
p.417	表の項目 (網掛け部)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">Id</th> <th rowspan="2">決定可能</th> <th rowspan="2">ガイドライン</th> <th rowspan="2">注</th> </tr> <tr> <th>C90</th> <th>C99</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Id		決定可能	ガイドライン	注	C90	C99																	
Id		決定可能	ガイドライン	注																						
C90	C99																									
p.432	10.2 略語一覧	AGC: Auto Generated Code (自動コード生成)																								
		AGC: Auto Generated Code (自動生成コード)																								